



# 分析結果報告書〔9〕 2/6

## <前処理>

抽出操作の有無	1. 実施した 2. 実施しなかった
試料量 (平均値) (mL)	( ) mL
抽出方法	1. 溶媒抽出 2. 固相抽出
溶媒抽出	
塩化ナトリウム添加量 (g/検体)	( ) g/検体
溶媒の種類	1. ジクロロメタン 2. その他 ( )
抽出回数 (回)	( ) 回
溶媒量: 抽出1回目 (mL)	( ) mL
溶媒量: 抽出2回目 (mL)	( ) mL
溶媒量: 抽出3回目 (mL)	( ) mL
試験試料容器の洗込回数 (回)	( ) 回
固相抽出	
固相の形状 注1)	1. 充填カートリッジ 2. ディスク 3. その他 ( )
充填剤の種類 注2)	1. スチレンジビニルベンゼン 2. メタクリレート・スチレンジビニルベンゼン 3. N含有メタクリレート・スチレンジビニルベンゼン 4. オクタデシルシリカゲル 5. オクチルシリカゲル 6. その他 ( )
コンディショニング方法	1. 極性溶媒 (アセトン又はメタノール) - 精製水 2. 無極性溶媒 (ジクロロメタン) - 極性溶媒 (アセトン又はメタノール) - 精製水 3. その他 ( )
試料通液方法	1. 減圧 (マニホールド使用) 2. 減圧 (固相抽出装置使用) 3. 加圧 (マニュアルでシリンジ使用) 4. 加圧 (固相抽出装置使用)
試料通液速度 (mL/min)	( ) mL/min
試験試料容器の洗いこみ	1. 実施した 2. 実施しなかった
洗いこみ溶媒	1. 精製水 2. 有機溶媒
洗いこみ回数	1. 1回 2. 2回 3. 3回以上
試料通液した固相の洗浄	1. 実施した 2. 実施しなかった
洗浄溶媒	1. 精製水 2. 有機溶媒
洗浄溶媒量 (mL)	( ) mL
固相の脱水・乾燥	1. 実施した 2. 実施しなかった
固相の脱水・乾燥方法	1. 遠心分離 2. 遠心分離+マニホールドを使って室内空気吸引 3. 遠心分離+マニホールドを使って吸引しながら窒素ガス通気 4. その他 ( )
通液した固相の乾燥-遠心分離 (分)	( ) 分
通液した固相の乾燥-通気 (分)	( ) 分
溶出溶媒	1. アセトン 2. ジクロロメタン 3. その他 (組み合わせ: )
溶出溶媒総量 (mL)	( ) mL
抽出液の脱水	1. 実施した 2. 実施しなかった
抽出液の脱水方法	1. 無水硫酸ナトリウムによる脱水 2. その他 ( )
クリーンアップ操作	1. 実施した 2. 実施しなかった
クリーンアップ方法	1. フロリジルカラム 2. シリカゲルカラム 3. その他 ( )
濃縮操作	1. 実施した 2. 実施しなかった
前処理後定容量 (最終検液量) (mL)	( ) mL
定容に用いた溶媒	1. アセトン 2. ジクロロメタン 3. その他 (組み合わせ: )

注1) ディスクには、ディスクを装着したシリンジ型固相を含む。

注2) Waters社製固相 Oasis-HLBはN含有メタクリレート・スチレンジビニルベンゼンの選択肢に含める。



# 分析結果報告書〔9〕 4/6

<LC/MS(/MS)> (該当する場合に入力する)

LCメーカー	( )	
MSメーカー	( )	
MS装置型式 注1)	1. シングル四重極      2. タンデム四重極 (MS/MS)      3. イオントラップ 4. 飛行時間 (四重極-飛行時間を含む)      5. その他 ( )	
MSイオン化法	1. ESIポジティブ      2. ESIネガティブ      3. APCIポジティブ 4. APCIネガティブ      5. その他 ( )	
MSイオン検出法	1. SIM法      2. マスクロマトグラム法      3. SRM(MRM) 4. その他 ( )	
分離カラムタイプ	1. 逆相      2. 順相      3. HILIC      4. イオン交換      5. その他 ( )	
分離カラム基材	1. シリカゲル      2. ポリマー	
分離カラム充填剤官能基	1. C18      2. C8      3. 4級アンモニウム基      4. アミノ基 5. その他 ( )	
分離カラム内径 (mm)	( ) mm	
分離カラム長さ (mm)	( ) mm	
分離カラム粒子径 (μm)	( ) μm	
ガードカラム	1. 使用した      2. 使用しなかった	
カラム温度 (°C)	( ) °C	
移動相A液	1. 精製水      2. ギ酸 ( ) v/v%      3. 酢酸 ( ) v/v% 4. ギ酸アンモニウム ( ) mmol      5. 酢酸アンモニウム ( ) mmol 6. その他 ( )	
移動相B液	1. アセトニトリル      2. メタノール      3. その他 ( )	
移動相混合条件	1. アイソクラティック      2. グラジエント	
移動相混合比率	時間 (min)	%B
初期条件 注2)	0 min	( ) %
	( ) min	( ) %
	( ) min	( ) %
	( ) min	( ) %
	( ) min	( ) %
	( ) min	( ) %
	( ) min	( ) %
移動相流速 (mL/min)	( ) mL/min	
注入量 (μL)	( ) μL	
定量用イオン(m/z) 注3)	( )	
確認用イオン(1)(m/z) 注3)	( )	
確認用イオン(2)(m/z) 注3)	( )	

注1) サイエックス社製 LC/MS/MS (Q-trap) は、タンデム四重極 (MS/MS) とする

注2) アイソクラティックで測定した場合は、初期条件のみを記入する。グラジエント条件はクロマトグラムにも記入する。

注3) MS/MS を用いた場合は、「289>91」の様に記入する。



# 分析結果報告書〔9〕 6/6

## <検量線の作成>

定量方法	1. 絶対検量線法      2. 内標準法      3. サロゲート内標準法 4. その他 (            )
指示値	
指示値の種類	1. 面積値      2. 高さ      3. その他 (            )
試料	(            )
空試験	(            )
検量線最低濃度	(            )
検量線最高濃度	(            )
サロゲート内標準 注1)	(            )
内標準 注1)	(            )
サロゲート内標準の平均回収率(%)	(            ) %
検量線種類	1. 直線 (重みづけなし) 2. 直線 (重みづけあり、重みづけ方法 (            )) 3. 2次曲線      4. 折れ線      5. 平均係数 6. その他 (            )
切片	1. 原点を通す      2. 原点を通さない
点数(点)	(            ) 点
最低濃度(μg/L)	(            ) μg/L
最高濃度(μg/L)	(            ) μg/L
濃度計算に用いた式 注2)	

注1) 該当する場合に記入する。

注2) 試料指示値:  $R_s$ 、内標準物質指示値:  $R_{is}$ 、サロゲート内標準指示値:  $R_{surrogate}$ 、ブランク試料の指示値:  $R_{blank}$ 、供試試料量  $V_{sample}$  (mL)、最終検液量:  $V_{final}$  (mL)、一次検量線の傾き:  $a_1$ 、検量線の切片:  $b_1$ 、二次検量線の二次係数:  $a_2$ 、一次係数:  $b_2$ 、切片:  $c_2$  の記号を使用する。

## <試料の保存>

共通試料保存方法	1. 冷蔵      2. その他 (            )
希釈試料保存方法	1. 冷蔵      2. その他 (            )

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

添付クロマトグラムのファイル名	
検量線データ	(            )
操作ブランクデータ	(            )
共通試料データ	(            )
精度管理用データ 注)	(            )

注) 下限値の算出、添加回収試験等。実施、添付した場合に記入する。